令和４年度

行方不明・置き去り事故防止のためのチェックリスト

～行方不明・置き去り等の事故防止に向けた取組の徹底について～

市内の教育・保育施設において、行方不明・置き去りの事故が多く発生しています。その原因は、人数確認ミス、職員間の声掛け不足、思い込み等のヒューマンエラーによるものです。
「行方不明・置き去り事故防止のためのチェックリスト」を使って、各自、全職員で自分たちの施設の安全管理について再確認をしましょう。

また、事故が起きた場合は、速やかな対応、職員間の連携が重要です。そのためにも事故発生時の対応についてフロー図等を使って確認し、全職員で共有しましょう。

１　園内

（１）園庭・屋上

■常に児童の人数や居場所を把握し、園庭や屋上から部屋に戻る等、保育の場面が変わるときは必ず人数確認を行いましょう。

	園庭で見失いが起きそうな場所を把握し、職員間で共有をしている
	短時間でも園庭を離れる時は、他職員に声掛けをしている
	屋上、部屋等を出る時は残っている児童がいないか、声に出して指差し確認をしている
	ドアに鍵をかける場合は、その前後で児童の人数確認をしている
	常に他職員と連絡が取れるような手段の工夫をしている（例：携帯電話・内線等）

（２）玄関・門扉

■門の開閉時に、児童だけが園外へ出てしまうことを防ぐために、ソフト面・ハード面の対策を行いましょう。

	送迎時、訪問者の出入り時の安全対策をとっている（例：注意の張り紙・職員が立つ等）
	登降園時の人数把握を確実に行う仕組みができている
	門扉・フェンス等の形状等、ハード面の対策がとられている （例：二重の施錠・児童の手が届かない開錠ボタンの位置、防犯カメラの設置等）

（３）室内

■建物内で死角になるところを職員間で把握・共有して安全対策を取りましょう。

	各クラスのデイリープログラムを職員間で周知・共有をしている
	児童の居場所を職員間で声を掛け合い、把握している
	押し入れ下や収納棚の中等、児童が入れる隙間の確認をしている
	倉庫・トイレ等は扉を開けたままにしない、鍵をかける時に指差し確認をしている
	エレベーター使用時は、乗る前、降りた後に人数確認をしている
	エレベーターは、ボタンに児童が触れない工夫をしている

２　園外

（１）散歩・園外活動

■散歩マニュアル、手順書、散歩マップ等、常に職員間で確認しましょう。

	散歩ルート、目的地で児童の見失いが起きそうな場所を把握している
	事前に、職員間で児童の体調や配慮事項を共有している
	職員の立ち位置、役割分担を確認して、常に児童の動きを把握している
	児童の居場所や職員の動きなど、移動中も常に職員間で声を掛け合っている
	散歩の前後や場所移動の際に、児童の顔を見て複数で人数確認を行っている
	散歩先で他園と一緒になった時は、自園の児童とわかる工夫をしている（帽子の色を変える等）
	児童への安全指導を行っている（交通ルール、目的地での遊びの約束等）
	初めて、または久しぶりに行く場所は事前に下見を行い安全確認している

（２）園バス

	園バス利用児童の出欠席を確認し、職員間で共有している
	乗車時、降車時に児童の顔を見て複数で人数確認をしている
	最終点検は、声出し指差しで車内に誰もいないことを確認している

３　その他

	事故が起きた時を想定し、その後の対応を職員間で話し合い共有している（例：事故防止・対応マニュアル、フロー図作成）

★空きスペースは、職員間で検討したチェック項目用に活用してください。

★参考：「保育所等の園外活動時等における園児の見落とし等の発生防止に向けた取組の徹底について」
厚生労働省　　　令和４年４月 11 日（事務連絡）
「保育中の安全管理について」
横浜市こども青少年局　保育・教育運営課　令和３年 12 月３日（依頼文）

こども青少年局　保育・教育運営課
連絡先　　　045－671－3564

人数確認のポイント

人数の未確認から、行方不明、置き去りなどの事故が多く起こっています。園生活の中で、人数を確認することは1日に何回もあります。**かけがえのない一人ひとりの命を守るために確認しています。**
子どもの顔を見て複数で確認しましょう。

登降園

○バスの送迎…乗車時、降車時に複数で人数確認しましょう。また、園バス利用園児の出欠席の確認を行いましょう。

○毎日、子どもの出欠席について確認をし、職員間で共有しましょう。

園内

園庭や屋上から部屋に戻る等保育の場面が変わる時は必ず人数確認を行いましょう。

散歩（園外保育）

子どもの動きを常に確認し、職員の立ち位置はどうか、職員同士の声の掛け合いは十分か、子どもの移動の際に見失いが起きそうな場所を把握しているか等を確認しましょう。

門扉・玄関

門が開いた時に、子どもだけが園外へ出てしまうことがないよう人数確認をし、ハード面の対策も行いましょう。

行方不明・置き去りを防ぐためのポイント

- 子どもの登園状況を確実に把握しましょう（出欠席や保育利用時間の把握、体調、欠席理由等）。
- 子どもが活動している様子を常に把握しましょう（どこで、誰と、何をしているか）。
- 園内外で見失いが起きそうな危険個所を把握し、職員の立ち位置を考えましょう（死角を作らない立ち位置・ 明確な役割分担・持ち場を離れるときの声掛け）。
- 人数確認は、複数の職員で子どもの顔を見て名前を呼び、確認しましょう。
- 一人ひとりの子どもの姿を全職員で共有しましょう。

横浜市こども青少年局